

# 郷土資料の 散歩道

図書館郷土資料室

☎21-61111 内線6201

## 渋井家寄贈文書

鷹山が師・渋井太室に

子孫が米沢図書館に寄贈  
送った書簡集

今回は図書館の寄贈寄託文書の中から、「渋井家寄贈文書」を紹介します。昭和四十七年に神奈川県在住の渋井徳之助氏より寄贈を受けたものです。

渋井氏の先祖は佐倉藩主堀田家の儒学者として著名な渋井太室。太室は上杉鷹山の学問師範もつとめた人物で、

渋井家では、鷹山が太室に送った書簡を大切に保存してきましたが、ぜひ地元米沢で活用してほしいと寄贈いただいたものです。書簡は一通で、三巻に仕立てられています。

### 藩政に関わる相談のやり取り

鷹山が藩主の時のものは六通で、五通は隠居後の手紙です。その内容は、年始や歳暮の挨拶、太室の加増お祝など儀礼的な手紙もありますが、中には政治向きのアドバイスに関したやり取りや、次の藩主治広の教育に関する相談・依頼などもあり、歴史的にも貴重



▲渋井家寄贈文書

な資料となっています。

政治関係では、財政難の米沢藩は家臣俸禄（給与）の半分を借り上げていましたが、困窮を訴える藩士に臨時的に返済するかを相談しています。江戸で授かった教えは返済不可でしたが、帰国した鷹山は藩士の実情を目の当たりにし、今年だけ借上の半分を返済することに評議したので、意見を聞きたいと手紙を出しています。その返信でも太室は、一年ばかりの返済では意義が無いと反対しているようで、鷹山は「御不審、甚御尤に承知いたし候」としながら、「爾、今日の国情は全く左様には有るまじく候やと存じ候」と反論も呈しています。なお、その言葉使いは「貴酬薫読致候」、「御教示敬承致候」、「恐惶頓首」等と、極めて丁寧です。

これとは反対に、太室から鷹山に送られた書簡も鷹山の手許にあったはずですが、残念ながら「上杉家文書」等には確認されていません。ただ、学問・政治の問い合わせに対する太室の書簡一通を、鷹山は軸装して座右に掛け、朝夕に読んだと『鷹山公偉蹟録』に記されています。

▶書簡の一通  
「去年廿一日貴酬致薫読候」で始まる。鷹山自筆で、やや丸みのおびた特色ある文字である。



### 鷹山と学問師範の交流

鷹山の学問師範といえば、まず第一に細井平洲（東海市出身）が有名です。平洲の紹介で、この渋井太室や滝鶴台（長州藩儒者）、南宮大湫といった著名な儒学者に師事、親交を深めています。鷹山は、生涯率先して続けた俟約をはじめ、正室幸姫は病弱で側室お豊の方は十歳上、他には側室・妾を持たないという、大名としては異例ともいえるストイックな生活を過ごしました。しかし、学問を好んだ鷹山にとって、こうした当時の一流の学者に政治や学問を相談し親交を深めたこと、さらに、その師の文集の序文や墓碑銘を依頼されるまで評価されたことは、何にも増して幸せを感じた事と思われれます。

注）書簡一通の全文は『置賜文化』五一号（昭和四十七年）で紹介されています。